

愛知名古屋アジア競技大会ヴァーチャル種目

日本代表候補選手選考の経緯について

(一社) 全日本テコンドー協会

ヴァーチャル種目の日本代表候補選考につきまして、複数のお問い合わせをいただいたことから、当協会として改めて経緯および考え方をご説明申し上げます。

既に公表のとおり、当協会は6月12日の理事会において、愛知名古屋アジア競技大会ヴァーチャル種目の日本代表候補選手を承認いたしました。ただし、同時点ではヴァーチャル種目は大会の正式種目として未だ採用されておらず、「正式採用となることがほぼ確実である」という情報に基づき、正式採用を条件として承認したものです。ヴァーチャル種目の正式採用が公表されたのは6月16日でした。

本来であれば、正式採用後に選考基準を策定・公表し、その基準に基づき選考を行うべきところです。しかし、アジア競技大会の選手・スタッフエントリー期限が7月1日に迫っていたため、正式採用前ではありましたが、期限に間に合わせる必要があり、6月12日の承認となりました。

次に、選手選考の前提となった出場資格等の要件について補足いたします。

アジア競技大会におけるヴァーチャル種目の各国代表は、原則としてキョルギ・プムセ種目にエントリーした選手とされていきました。これは、テコンドー競技の総選手数が当初想定160名を超えないことが、ヴァーチャル種目正式採用の条件とされていたためです。

一方、日本はキョルギ種目の開催国枠2名を使用していなかったことから、この未使用枠を用いてヴァーチャル種目の代表選手2名の追加エントリーを要望しました。その結果、キョルギ・プムセ代表選手以外の選手が、ヴァーチャル種目にエントリーすることが認められることとなりました。

理事会では、この2名の追加枠を求めた趣旨を踏まえ、選考基準の合理性、客観性、公平性について慎重に検討を行いました。その結果、

- キョルギ・プムセ代表以外から2名のヴァーチャル代表が認められた以上、よりメダル獲得の可能性が高い選手を選ぶべきであること
- 選考にあたっては、WTのヴァーチャル競技に継続的に取り組んできた選手、すなわちヴァーチャル・テコンドージャパンシリーズに参戦し、競技力向上に努めてきた選手を対象とすべきであること

を基本方針といたしました。

これらを踏まえ、2025 年度ヴァーチャル・テコンドージャパンシリーズの入賞者が出場した FINAL（東京）の成績を基礎とし、アジア競技大会の出場資格年齢を満たす選手の中から、男女それぞれ成績最上位者を代表候補として選考いたしました。なお、選考会の実施は代表選考の有力かつ公平な方法の一つではありますが、選考会を行わなければ公平性を欠くというものではないと考えております。

以上が、今回のヴァーチャル種目日本代表候補選手選考の経緯および判断の概要です。

理事会の決定にご理解を賜り、キョルギ・プムセ種目のみならず、ヴァーチャル種目においても日本代表選手が活躍できるよう、引き続き応援とご協力をお願い申し上げます。

以上